

研究事業評価調書(平成20年度)

作成年月日	平成20年12月15日
主管の機関・科名	長崎県総合農林試験場 東彼杵茶業支場

研究区分	戦略プロジェクト研究、連携プロジェクト研究、特別研究、 経常研究(基盤・応用・実用化)の別
研究テーマ名	茶樹優良品種の選定並びに母樹園の設置

研究の県長期構想等での位置づけ

構 想 等 名	構 想 の 中 の 番 号 ・ 該 当 項 目 等
ながさき夢・元気づくりプラン (長崎県長期総合計画 後期 5か年計画)	Ⅱ 競争力のあるたくましい産業の育成 6 農林水産業いきいき再生プロジェクト ② 農林業の生産性・収益性の向上

研究の概要

1 研究の目的

(1) 本事業で誰(何)の【対象】

県内茶栽培農家594戸 764ha(平成18年度)

(2) 何(どのような状態)を【現状】

県内茶園の約87%が「やぶきた」種に偏重している。また、県内茶園の47%が樹齢21年以上の茶園(うち31年以上が約12%)と高齢茶園が多い。

(3) どのようにしたい。【意図】

「やぶきた」に替わる優良品種を選定し、高品質化・生産性の向上により、茶農家経営の安定・発展を図る。

また、リーフ茶やドリンク原料茶など、ニーズを反映した新品種の早期導入により他産地との差別化を図り、地域ブランドを確立する。

2 事業実施期間 昭和52年度～(終期無し)

3 事業規模 総事業費 88,660千円(参考:H9~H20)

(総人件費75,495千円、総研究費13,165千円)

4 研究の目的を達成するために必要な研究項目

① 茶樹優良品種の選定

有望系統の品種特性及び本県適応性の調査。

② 母樹園の設置

県奨励品種6品種のうち「おおいわせ」「さえみどり」「あさつゆ」「めいりよく」「おくゆたか」の穂木茶園を確保管理し、要請に応じて穂木を配布する。

- 5 この研究成果による社会・経済への波及効果の見込み
品種特性を活用した改植により、高品質化・規模拡大・生産コスト削減などが図られ、県内茶産地の維持発展に繋がる。
また、新たに奨励する品種については、純系母樹園より穂木の供給を行い迅速な増殖を行う。
- 6 参加研究機関等
- ① 全国17の茶研究機関 役割：有望系統についての試験データを共有し、新品種登録に向けた検討を行う。
- ② 長崎県茶苗生産組合 役割：配布した穂木を育成管理し県内供給茶苗木を生産する。

① 研究の必要性

1 社会的・経済的背景

① 茶樹優良品種の選定

「やぶきた」は市場性の高い品種であるが、一品種偏重により、香味の画一化、作業時期の集中による摘採遅れ、規模拡大の障害などの問題が発生している。

また、茶園の高齢化は、品質・生産性を低下させる原因のひとつとなっている。このため、「やぶきた」に替わる優良品種への改植による茶園の若返りが必要である。

② 母樹園の設置

本県奨励品種5種(「やぶきた」以外)の優良純系穂木の安定供給により、迅速な改植及び早期成園化が図られる。優良品種を保存管理することは、県内産品種苗確保体制の一環となっている。

2 県民又は産業界等のニーズ

①茶産地では、地域ブランド確立に向けて品種導入の動きも活発化しており、本県適応性や品種特性などの試験情報提供が求められている。また、近年は高級リーフ茶向けやドリンク原料茶に向く少肥多収性品種等についての情報提供要請が増加し、品種の多様化に対する要望が強くなっている。

②茶苗の県内産供給量は需要の約50%と少なく、県内産優良茶苗の安定供給確保が求められ、その前提として純系品種の優良穂木の確保が必要とされている。さらに、多様な品種に対応する見本園や原種の県内保持が必要とされている。

3 国、他県、市町、民間での実施の状況または実施の可能性

本支場を含め全国18ヶ所の研究機関にて調査した有望系統の試験データを共有し、新品種登録に向けた検討を行っている。

また、各有望系統の本県適応性の研究調査、県奨励品種を決定するためのデータ収集、新品種の効率的な普及や茶苗生産体制を取るための純系保存栽培など、長期にわたり栽培研究を請け負える企業・関係団体などは県内には他に無いと考える。

② 効率性

1 研究目標 必要な研究項目と期間、年度ごとの活動目標値（定量的目標値）とその意義

研究項目	活動指標	9～14年度		13～18年度		15～20年度		目標値の意義
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
①-1 茶樹優良品種の選定(系適第8群)	本県適応性を持つ有望系統を選定する	2	2					選定する有望系統数
①-2 茶樹優良品種の選定(系適第9群)	本県適応性を持つ有望系統を選定する			2	1			選定する有望系統数
①-3 茶樹優良品種の選定(系適第10群)	本県適応性を持つ有望系統を選定する					2	-	選定する有望系統数
研究項目	活動指標	18～23年度		20～25年度		20年度		目標値の意義
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
①-4 茶樹優良品種の選定(系適第11群)	本県適応性を持つ有望系統を選定する	2	-					選定する有望系統数
①-5 茶樹優良品種の選定(系適第12群)	本県適応性を持つ有望系統を選定する			2	-			選定する有望系統数
② 母樹園の設置	優良純系穂木を確保・配布する					10万本	-	確保・配布する優良純系穂木数

2 活動指標を設定した理由

（他の活動指標と比較して、効率よく研究成果を得られると見込んだ理由）

①を設定した理由

指定試験地である野菜茶業研究所(金谷茶業研究拠点・枕崎茶業研究拠点)、埼玉県農林総合研究センター茶業特産研究所、宮崎県総合農林試験場茶業支場の4ヶ所から配布される1群約12系統について、本県適応性を持つ有望系統を選抜する。

②を設定した理由

場内母樹園からの供給可能数。

3 研究実施体制について

長崎県総合農林試験場 東彼杵茶業支場

4 予算

研究予算 (千円)	計	人件費	研究費	財 源			
				国庫	県債	その他	一財
全体予算	88,660	75,495	13,165			11,110	2,055
9年度	7,618	5,961	1,657			1,350	307
10年度	7,602	5,961	1,641			1,350	291
11年度	7,101	5,961	1,140			850	290
12年度	7,014	5,961	1,053			860	193

13年度	7,014	5,961	1,053			882	171
14年度	6,961	5,961	1,000			829	171
15年度	6,961	5,961	1,000			829	171
16年度	8,757	7,760	997			832	165
17年度	8,698	7,784	914			832	82
18年度	7,023	6,109	914			832	82
19年度	6,997	6,083	914			832	82
20年度	6,914	6,032	882			832	50

③ 有効性

1 成果目標

研究項目ごとの期間、年度ごとの成果目標値（定量的目標値）とその意義

研究項目	成果指標	9～14年度		13～18年度		15～20年度		目標値の意義
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
①-1 茶樹優良品種の選定(系適第8群)	選定する有望系統数	2	2					本県適応性を持つ有望系統を選定し改植に活用する
①-2 茶樹優良品種の選定(系適第9群)	選定する有望系統数			2	1			本県適応性を持つ有望系統を選定し改植に活用する
①-3 茶樹優良品種の選定(系適第10群)	選定する有望系統数					2	-	本県適応性を持つ有望系統を選定し改植に活用する
研究項目	活動指標	18～23年度		20～25年度		20年度		目標値の意義
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
①-4 茶樹優良品種の選定(系適第11群)	選定する有望系統数	2	-					本県適応性を持つ有望系統を選定し改植に活用する
①-5 茶樹優良品種の選定(系適第12群)	選定する有望系統数			2	-			本県適応性を持つ有望系統を選定し改植に活用する
② 母樹園の設置	確保・配布する優良純系穂木数					10万本	-	県内産茶苗生産に活用する優良穂木を確保・配布する

2 各研究項目における解決すべき課題及び想定される解決方法

研究項目①

県の基準技術による均等な栽培管理により、系統間差を明確に発現させるとともに、系統の特性に応じた管理も行い最大限の特性発現下において本県栽培環境および茶種への適正を客観的に評価する。

また、少肥特性や耐病虫害性など、今後必要とされる特性について重点的に評価する。

研究項目②

計画的に穂木園の更新を行いより強い穂木を生産すると共に、気象状況に迅速に対応した栽培管理を実施する。

3 従来技術・先行技術と比較した新規性、優位性

研究項目①

既存品種に無い特性を持った系統の把握が可能であり、品種化後速やかに産地への情報提供が実施出来る。

研究項目②

「やぶきた」以外の奨励品種導入や、本県で使用される茶苗の県内産割合の向上に貢献でき、優良茶苗の安定供給により茶農家経営の安定向上が図られる。

4 成果の概要

①平成9年度以降、有望系統の中から宮崎20号・埼玉37号・宮崎25号を有望として選抜推薦し、全国の研究機関との協議において品種化された。本研究が始まった昭和52年度以降では15品種が品種化された。

また、県奨励品種6品種を決定した外、20年度には認定品種候補として新たに3～4品種の推薦を行う予定である。

②平成9年から平成19年の穂木配布数は876,600本である。

5 成果の社会・経済への還元シナリオ

有望系統試験データは、本県の茶奨励品種及び認定品種改定に活用出来る。

穂木は県農産園芸課主催の需給調整会議の結果に伴い確保・配布する。

リーフ茶やドリンク原料茶などニーズに対応する奨励品種を迅速に選定し、優良穂木を安定供給することにより優良な茶園の育成につながり、茶農家経営の安定向上が図られる。

【研究開発の途中で見直した内容】

なし

研究評価の概要

種類	自己評価	研究評価委員会
事前	(年度) 評価結果 (総合評価段階：) ・必要性 ・効率性 ・有効性 ・総合評価	(年度) 評価結果 (総合評価段階：) ・必要性 ・効率性 ・有効性 ・総合評価
	対応	対応

途中	<p>(20年度) 評価結果 (総合評価段階： A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性：A <p>「やぶきた」は市場性の高い茶品種であるが、一品種偏重による問題が顕在化している。このため、「やぶきた」に替わる優良品種への改植による産地活性化が必要であり、そのために県内に適した特徴ある品種の検討が必要である。さらに、品種の普及には、純系の母樹管理による種苗の供給が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率性：A <p>数年おきに提供される系統群から県内適正のある有望系統を推薦し、全国規模の検討の中から品種化され効率性は高い。最近の品種についてはほとんど県内適応性を検討しているので、市場の変化や需要の変化により新たな品種の奨励品種化や品種苗の生産にも効率的に対応できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有効性：A <p>平成9年度以降、宮崎20号・埼玉37号・宮崎25号を有望として選抜推薦し、全国の研究機関との協議においていずれも品種化された。昭和52年度以降では15品種が品種化され、その中から、県奨励品種6品種を決定したほか、20年度には認定品種候補として新たに3～4品種の推薦を行う予定である。さらに、平成19年までの品種穂木配布数は876,600本であり、県内の普及に有効に機能している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合評価 <p>茶の品種切り替えには、10年を超える期間を要し、育種にはさらに長い年月を必要とする。本課題は全国規模の連絡試験を兼ねることで、新たな多数の品種の県内適応性をおさえており、原種の保存により品種普及まで兼ねた研究で、茶業に貢献している。</p>	<p>(20年度) 評価結果 (総合評価段階： A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 ・ 効率性 ・ 有効性 ・ 総合評価
-	対応	対応
事後	<p>(年度) 評価結果 (総合評価段階：)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 ・ 効率性 ・ 有効性 ・ 総合評価 	<p>(年度) 評価結果 (総合評価段階：)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 ・ 効率性 ・ 有効性 ・ 総合評価
-	対応	対応